

中国語スピーチコンテストが終わって思うこと（1等賞）

アジア文化学科4年 石田 沙也佳

私が中国語スピーチコンテストに初めて参加したのは2年生のときだった。当時はただ『中国語が好き』という意識しかなく、周りが参加するのに連れられて参加したような形だった。それでも必死に原稿を暗記して、当日挑む事になった。発表の直前まで友達と一緒に必死に練習したのを今でも覚えている。しかし、結果は惨敗。直前まで完璧に暗記していた原稿が、壇上に立った瞬間どこかへ飛んでいった。きちんとした四声で読むことはおろか、最後まで読み終えることすらできなかった。

今思えばこの悔しさからのスタートだったかもしれない。『中国語が好き』という概念のほかに、中国語でコミュニケーションを取れるようになりたい、中国語をマスターしたいと心の底から思うようになった。

そして大学3年生のとき、私は中国への留学を決意した。中国北京での生活は本当に、全てが勉強。講義はもちろん、生活の全てが中国語。このような状況になると音を上げる人も多いが、私は逆だった。毎日が本当に充実し、今までの人生の中で一番勉強したと思う。

そして1年間の留学を終えて、帰国。北京での生活があまりに充実していたため、日本での生活は正直拍子抜けの日々だった。北京でのあの充実した日々を取り戻したい一心で、私はスピーチコンテストに参加する事を決めた。さらに今回は、自分で原稿を作り上げ、自分の言葉で表現しようと試みた。

原稿を書き上げては、崔先生にチェックしてもらった日々。そして、ようやく完成したときには、スピーチコンテストまでわずか1週間しか残されていなかった。私は、毎日書きあがった原稿を練習する中で、初めて参加したあのスピーチコンテストの事を思い出した。そして、自分の中国語の成長を実感すると共に、これまでの大学生活で成し遂げてきた事が誇らしく思えた。

そしてスピーチコンテスト当日、私はすっかり大規模になっている中国語スピーチコンテストの様子に驚くと同時に、なんだか感動してしまった。私が始めて参加した当時は、まだ小さな教室で、本当にごく一部の学生しか参加していなかったのに、今ではこれほど多くの学生が中国語を真剣に学んでおり、そして多くの学生や先生の前で発表しようとしている。私も負けていけないと、また直前まで練習した。そして、いよいよ私の番になったとき、緊張もなく自分が書き上げた、自分の文章を、自分らしく読むことができた。

結果として、一等賞を受賞する事ができ、本当に嬉しかった。

私の人生は中国語に出会い、大きく開けた。これからも、中国語を一生勉強していきたいと考えている。

筑紫女学園大学アジア文化学科に入学して、中国語に出会えた事に心から感謝。